

年中行事（正月の歳徳神と門松）



*野村家文書5「庄屋許年中行事」。伊勢神宮の大麻・洗米・昆布・扇子・ユズ・リハ・にらみ鯛・橙・スルメ・串柿・イワシ・大根・宝袋・カナハカリ（天秤カ）などが記されています。

解説

正月や盆などの年中行事は、江戸時代には庶民も盛んに行うようになりました。正月には縁起のよい方角（恵方）に歳徳棚を釣って「歳徳神」を迎え、その年の福德を祈りました。左の写真は、近世に吉敷村（現山口市）の庄屋等を務めた野村家で、明治初年ごろ歳徳棚に供えられた縁起物です。上には描かれていませんが、中央には鏡餅が置かれ、周囲にはしめ縄が張られたことでしょう。

一方、下の写真は、カド（玄関の前庭）に立てられた門松と、その周囲でおめでたい文言を唱え、その家を祝福する「万歳（まんざい）」の様子です。門松は薪や割木に挟んで立てられました。

子どもたちは、鞠（まり）・凧（たこ）・突羽子（羽根つき）などで遊びました。



*吉川家文書307「万歳図」。万歳のように、家々を回って門口で行う芸能を「門付け（かどつけ）」といいます。